

身近に棲んでいる希少な蝶と多様な哺乳類

令和6年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージ I】採択課題

課題名：木賊川遊水地一帯における希少蝶および野生哺乳類の生息実態の解明

研究代表者：総合政策学部 鈴木正貴

課題提案者：たきざわ環境パートナー会議

研究メンバー：渋谷晃太郎、櫻井麗賀、辻盛生（総合政策学部）

技術キーワード：獣害対策、環境教育、市民活動、自然再生

▼研究の概要（背景・目標）

木賊川遊水地（造成中）には、希少な野生動植物が数多く確認されている（図1）。本研究は、これら動植物の生息・生育環境の保全に資する基礎データを得るため、希少蝶Aとその宿主Bの生息状況、および哺乳類の生息種について、それぞれ把握することを目的とした。

▼研究の内容（方法・経過）

1. 希少蝶Aと宿主Bの生息状況・環境の把握：希少蝶Aの飛翔個体の計数を実施した（2024年7月29日～8月29日）。あわせてマーキングによる行動範囲の把握を行った（写真1）。宿主Bについては、草刈り管理と巣の数との関係、および降雨による巣の水没時間について調査した（写真2）。

2. 哺乳類の生息種把握：自動撮影カメラを木賊川遊水地内に5台設置して、撮影された映像から動物の種判別を行い、動物ごとに撮影回数を集計した。

▼研究の成果（結論・考察）

1. 希少蝶Aの生息状況：1日あたりの最大個体数が2個体で、昨年（2023年）の調査結果である17個体と比べて激減した。水没しやすい場所に生息する宿主Bの巣内にいた希少蝶Aの幼虫が、豪雨など悪天候の影響を受けて羽化できなかった可能性が考えられた。

2. 宿主Bの生息環境：草刈り管理で個体数が増えたのは、照度上昇による餌資源（草本の種子など）の増加によると推察された。また、大きな草株にあった巣は短時間の水没であったことから、大きな株は残しつつ、定期的に草刈りを行う管理が必要と考えられた。

3. 哺乳類の生息状況（表1）：11種類が確認され、タヌキ、ハクビシン、ホンドギツネが優占種であった。2023年の予備調査で確認されたツキノワグマ、アライグマは未確認であった。

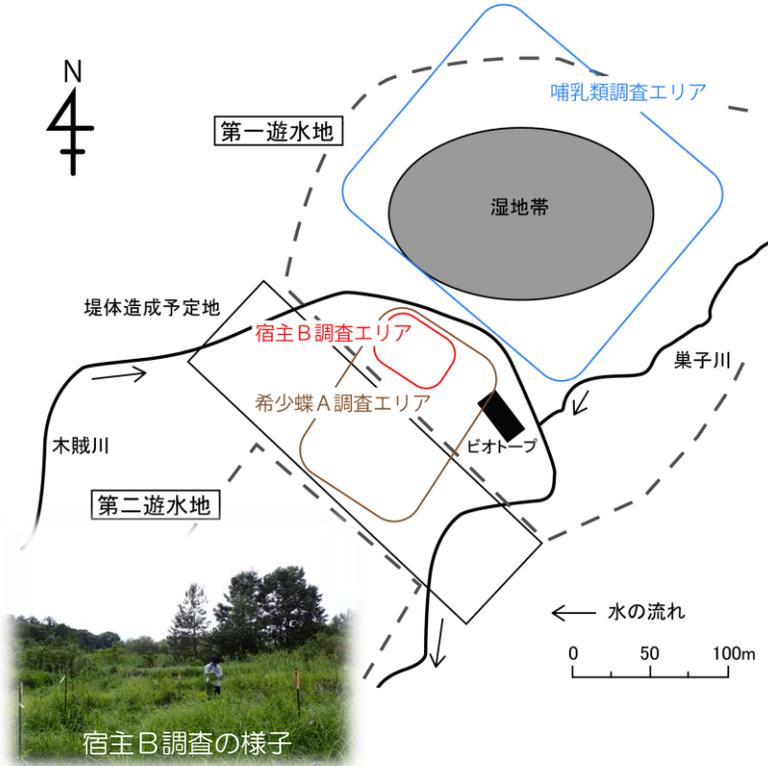


図1 調査対象の概要

表1 撮影された哺乳類

和名	学名	合計の撮影回数
ホンドタヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides viverrinus</i>	904
ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	69
ホンドギツネ	<i>Vulpes vulpes japonica</i>	115
ニホンノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	30
ニホンイタチ	<i>Mustela itatsi</i>	20
ニホンアナグマ	<i>Meles anakuma</i>	24
ホンドテン	<i>Martes melampus melampus</i>	13
ニホンカモシカ	<i>Capricornis crispus</i>	11
ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	47
ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	2
ネズミ科	<i>Muridae sp.</i>	13



▼おわりに（まとめ・今後の展開）

希少蝶Aの生息個体数の年変動を把握するため調査を継続する。また、未確認であったアライグマやツキノワグマは、在来生態系や人の活動にも影響がある動物種であるため、今後も調査を継続して注視する必要がある。